

平成30年度 第7回頸城区地域協議会次第

日時：平成30年8月31日（金）

午後6時30分から

場所：頸城コミュニティプラザ

2階 203会議室

1 開 会

2 会長あいさつ

3 協 議 事 項

○自主的審議事項について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 資料1 資料2

・課題解決の方策の検討について

・課題解決に向けた体制の検討について

4 報 告 事 項

5 そ の 他

・東北電力(株)上越火力発電所建設所開所について・・・・・・・・・・ 資料3

6 閉 会

自主的審議事項「大池・小池の観光資源としての利活用について」内容検討表

大分類		現状 (何が、どうで)	課題 (こんな問題がある)	解決策案 (だからこんなことができないか) (自分たちに何かできないか)
①	ビジターセンターの観光施設としての利用促進	大池には平成7年に「農業農村活性化農業構造改善事業」を活用して整備した「大池いこいの森ビジターセンター」がある。	自然学習、青少年教育等に特化した利用となっており、大池・小池を観光資源としてとらえた利活用ができていない。	大池・小池を地域の宝として活用すべく、観光という観点も取り入れた施設の管理となるよう運営を見直していく必要がある。 また、風呂の改修や冬期休館の廃止も含め、年間を通じてだれが訪れても対応できる宿泊施設とすべきである。
②	大池第3キャンプ場の駐車場の拡張	大池第3キャンプ場の向かいには、約20台を収容する駐車場がある。	年間3,000人を超えるキャンプ場利用者がある現状にあり、駐車場が圧倒的に不足している。	利用者、交流人口の増加による地域活性化という観点からも、キャンプ場がより使いやすい施設となるよう周囲の自然環境に配慮した駐車場の拡張が必要である。 あわせて、キャンプ場をはじめ大池・小池周辺の観光資源の利活用について市のホームページ等、インターネットを使ったPRに力を入れていく必要がある。
③	小池周辺の桜の整備	記念植樹も含め、小池周辺には市内でも有数な数の八重桜が植栽されている。	桜の手入れが行き届いておらず、その魅力をPRし切れていないばかりか、枯れたり、枝折れした桜も多く散策にも危険を及ぼしている。	市内でも有数な八重桜の名所として小池の魅力をアピールできるよう、適切な桜の維持管理を行っていかなければならない。
④	大池・小池の釣り、並びにキャンプ場利用の有料化と管理事務所の設置	大池・小池は釣りが禁止されているが、ブラックバス釣りをはじめとした釣り人が後を絶たない。また、キャンプ場の利用も無料となっている。	一部のマナーの悪い釣り人やキャンプ場利用者によりゴミが散乱する等、環境が侵されるケースが散見される。	大池・小池での釣りの解禁やキャンプ場の在り方の検討も必要である。管理事務所を設置し、施設管理の一元化を進め、すばらしい自然環境の維持に努めていくべきである。
⑤	大正山の整備	大池の隣地には大池いこいの森整備事業などで整備された大正山がある。	散策路やトイレ、案内看板など一部において整備がなされたもののその後の管理が行き届いておらず、散策も困難なような現状にある。	かつて旧村時代に観光レクリエーションゾーンと位置づけてきた東部地区開発や大池いこいの森整備事業の趣意に則り、大池・小池、頸城平野はもとより日本海まで眺望できるよう大正山を整備していくとともに、あわせて散策道もトータル的に手入れを行い景観も安全面も担保できる計画的な整備が必要である。
⑥	雁金城跡周辺の整備	頸城区には上記大正山に隣接して、上杉謙信が本城（ほんじょう）である春日山城を守るために置いた大小約120の支城（しじょう）郡の一つで、春日山城に狼煙を使って連絡をする最後の拠点であったとされる雁金城跡がある。またこれは、花ヶ崎街道を監視する要所にあり、敵の侵入を防ぐ上でも重要な城であったとされている。	雁金城跡には本丸、二の郭（にのかく）、空堀（からぼり）、土塁（どるい）の跡などが残っており、雁金城跡保存会などが地域活動支援事業等を活用して階段の整備やベンチの設置といった施設整備のほか、パンフレットの設置や狼煙上げの実施などの情報発信も行っているが、施設整備、知名度の向上ともに地域の取り組みだけでは限界がある。	頸城区の財産である雁金城跡により多くの方から安全に訪れていただくとともに、市内外への情報発信、並びに大池・小池の整備と一体となった施設整備を行っていかなければならない。

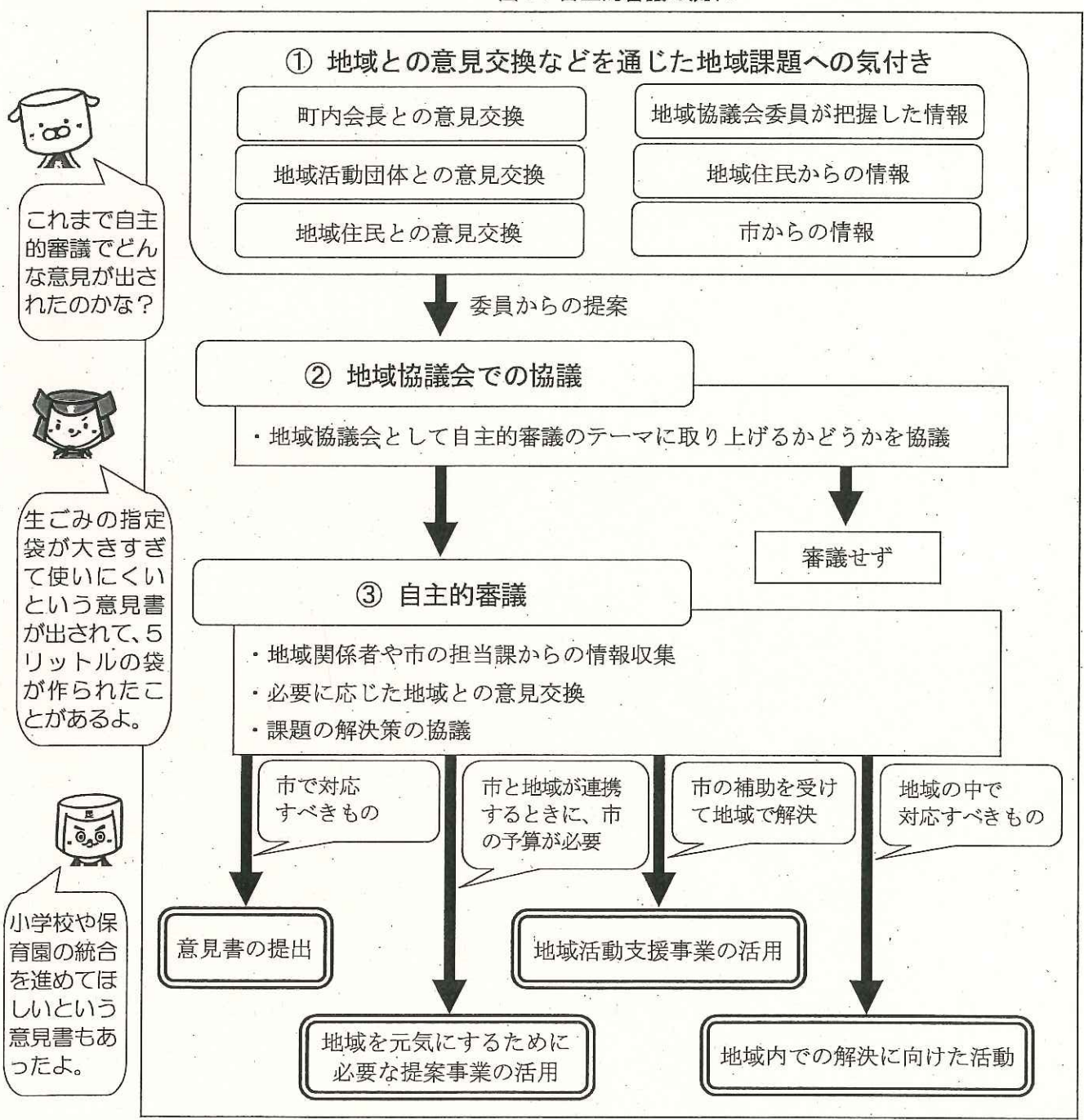
(2) 自主的審議

○自主的審議とは

地域協議会は、自主的な判断で地域自治区の区域における課題等について審議することができます。自主的審議事項として話し合った結果については、市長に意見書を提出し、市政での実現を求めていくことができます。

ただし、地域協議会は、地域住民の意見を市政に反映するための仕組みであることから、地域自治区に住む住民としての観点からの議論となり、市長に提出される意見書についても、当該区との関わりを基にした内容でなければなりません。

図6：自主的審議の流れ





より、そう、ちから。東北電力
上越火力発電所 建設所

より、そう、つうしん

創刊号



2018年7月発行 東北電力株式会社上越火力発電所 建設所 〒942-0027上越市八千浦1 TEL.025-531-2013

ごあいさつ



所長 鈴木文博



はじめまして。

この7月より開所した東北電力(株)上越火力発電所建設所長として着任した鈴木文博と申します。当発電所は、平成35年6月の営業運転開始を目指し、世界最高水準の熱効率を誇る、最新技術を導入した近未来的なプラントとなるよう計画しております。この上越の地に、世界に誇れるプラントを建設し、工業設備として地元の象徴のひとつとなれるよう、所員一同、努力してまいります。

私事としては、出身が秋田、住まいは宮城ということで、上越の夏の暑さに少々驚いている次第です。逆に冬も寒さが気になります。しかしながら、これまで勤務してきた町々に比べても、総じて住みやすい地であると感じており、最近始めた趣味のゴルフを満喫できたらと考えています。

当社プラントの建設に当たっては、なんといっても地元の方のご理解、ご協力なくして成り立たないものと考えています。そのためにも、工事状況などの定期的な情報発信をさせていただきながら、当社コーポレートスローガンであります「より、そう、ちから。」に基づき、地元の方々に可能な限り寄り添っていきたく考えておりますので、今後とも、よろしくお願いいたします。

東北電力上越火力発電所1号機の概要

東北電力(株)上越火力発電所1号機は、天然ガスを燃料とする出力57.2万kWの発電所で、一般家庭約80万世帯分の年間使用電力量に相当する発電をします。

また、ガスタービン発電と蒸気タービン発電を組み合わせたコンバインドサイクル発電設備で、化石燃料の節約とCO2等の環境負荷の低減を図ります。

出力	57.2万kW
発電方式	ガスコインドサイクル
燃料	天然ガス
熱効率	63%以上(LHV)*
着工予定	2019年5月
運転開始予定	2023年6月



*LHV(低位発熱量基準)： 燃焼ガスを完全燃焼させたときに生成する水蒸気の凝縮潜熱を熱量に含めない熱量

建設スケジュール

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
工程	▼7月 建設所開所	▼5月 着工(工事計画届出) ▼7月 工事開始				営業運転開始 ▼6月
		土木・建築工事				
		機器据付工事				
					試運転	

※建設所開所以外は予定

開所式を開催しました！

7月18日(水)に、八坂神社の御神職様から神事を執り行っただき、所員20名と関係者で今後の建設工事の安全を祈願いたしました。

地域の皆さまから「世界に誇れるわが町の火力発電所」と思っていただけるよう、安全第一で建設工事を進めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



建設所発足メンバー20名



看板を設置



御神職様にお祓いを受ける一同



報道機関のインタビューを受ける鈴木所長

<お知らせ>

7月19日の新潟日報に当建設所開所式の記事が掲載されました。その中に「送電線や鉄塔の場所などは未確定で、今年11月をめどに沿線住民への説明会を検討」とありますが、11月に開催を予定しているのは「**発電所の環境影響評価の説明会**」です。同説明会の開催日程については、改めてお知らせいたします。